

(様式2)

令和5年度佐賀大学研究者国際交流支援事業報告書

令和5年12月27日

国際交流推進センター長 殿

事業責任者（申請者）

所 属 芸術地域デザイン学部

職 名 教授

氏 名 柳 健司

下記のとおり令和5年度佐賀大学研究者国際交流支援事業の実施結果について報告します。

1.国際研究集会名	スイス - 日本・芸術家国際交流 2023		
2.事業責任者 (申請者)	柳 健司	3.所属・職名	芸術地域デザイン学部 教授
4.開催期間	令和 5 年 1 1 月 1 8 日 ~ 令和 5 年 1 2 月 2 4 日		
5.申請区分	C) 一般		
6.参加者数 ※参加者名簿(別添) を添付	参加者数 約 1 5 0 名 内、外国人数 5 名、研究者数 約 7 0 名、 学部学生数 約 4 0 名、修士以上学生数 1 4 名		
7.招待講師	所 属 Hebel 121 Gallery 職 名 Artist 氏 名 Daniel Gottin (ダニエル・ゲティン) Gerda Maise (ゲルタ・マイセ)		
8.支出額	金 額 179,198 円 【内訳】 謝金 980,000円 旅費・作品輸送費 27,700円 消耗品費・制作費 53,498円		
9.国際研究集会の内容（実施の様子について、2～3枚程度写真をご提供ください） (相手国・スイス 相手機関： Hebel 121 Gallery) スイスからアーティストを招聘し滞在制作・作品の展示・講演・研究者や学生との国際交流。			



芸術地域デザイン学部での講演



茶室「清恵庵」での茶会



展覧会初日のレセプション

10.事業実施による成果・今後の事業の発展等

本事業の実施により、学生たちが、海外の作家や作品と出会い交流することで、物事をグローバルな視野で捉え思考する機会を提供することができたと思う。またアーティスト同士の交流の中で表現活動に対する考え方やスイス、バーゼルのアートシーンについて意見を交換できたことは有意義な交流だった。彼らが住んでいるバーゼルでは世界最大級のアートフェア「アートバーゼル」が毎年開催され、アートフェアは近年ビッグビジネスとなっている。そのような状況において、芸術至上主義のアーティストと経済至上主義の商業ギャラリーや美術館との関係は世界共通の問題であり、アーティストランスペースやアーティスト同士の国際的ネットワークを広げていくことの重要性を再認識することができた。今後も様々な国のアーティストを招聘し学生や研究者そして一般市民に国際交流の場を提供していきたい。

11. 実施者アンケート

本事業の満足度（5（非常に良い）～1（非常に悪い））： 5

支援経費は適切であったか（5（非常に適切であった）～1（非常に適切でなかった））： 5

次年度以降も本事業の実施を希望するか： 希望する

そのほかコメント：

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。

※写真は学内外へ発信する広報に活用するため、映っている方々からの使用許諾済みのものをお送りください。また、写真データ（jpg または png）の送付をお願いいたします。（Word 貼付けとは別に）